

介護実習に参加しての感想

この実践をさせていただき、まず介護者の仕事がどれだけ大変で重労働であるかという事を実感できた。また、介護時に移動してもらい、座ってもらい、ということを実際にする、してもらいまでは、とても簡単な事だと思っていたが、実はそうではなく、スキルや関係性など、様々な要素があるという事がわかった。そして、こうした実習の機会を今後ともたくさん設けてほしい。たくさん学ぶ事があると思う。今日は麻痺がある方ではなく、健康な方で行ったが、様々な麻痺や疾病を抱えた人を介助したり、退位の移動、おむつをかえたり、ということを知りたい。

まず、感じたのは、介護者と介護される側の距離の近さだ。声をかけるときに上から見下ろすのではなく、視線を同じにすることで、暖かい雰囲気で行える事がわかった。介護者と被介護者が話をする、目を合わせて会話をすることでお互いの関係性が深まる事がわかった。実際にやってみて、この仕事は本当に大変で重労働だが、心のこもった人と人とのやり取りだとわかった。

介護の際には、感情的精神的な面とスキルの面の両方を兼ね備える必要がある事がわかった。介護技術が上手く出来ないときにはすごくしんどいが、講師からなおしてもらいと、やはり楽だと感じた。一方で介護される側も、介護する側の技術がいまひとつだった時には、不快だった。しかし講師がしたときには快適で、スムーズだった。スキルと精神面の両方が必要だと感じた。

